

# 「村一番の嫁」二重介護の果て

## 敦賀3人遺体

福井県敦賀市の民家で17日、70代の会社役員男性と90代の両親の遺体が見つかった。男性の殺人容疑で逮捕されたのは、妻の岸本政子容疑者(71)。

「村一番の嫁」と家族が自慢し、面倒見がいいと地元で評判だったが、近しいには「介護がしんどい」と打ち明けていた。事件の背景に「老老介護」「多重介護」の問題が浮かび上がる。



3人の遺体が見つかった住宅(19日、福井県敦賀市) 森岡みづほ撮影

## 義父母が夫が…71歳「しんどい」

義父母が夫が…71歳「しんどい」

JR敦賀駅から南に約2kmの道口地区。田園地帯の集落に立つ一軒家で、事件は起きた。17日朝、政子容疑者から「(家族に)手をかけた」との電話を受けた。親族が容疑者宅を訪れ、3人の遺体を見つけた。

県警によると、政子容疑者の夫の大喜雄さん(70)が2階寝室、義父の芳雄さん(93)と義母の志のぶさん(95)が1階寝室で倒れていた。政子容疑者は「3人を世話をしていた」「3人の首を絞めた」と話す。県警は太喜雄さん殺害容疑で逮捕。義父母殺害容疑でも立件する方針で、介護疲れが理由の一つとしている。

事件は4人暮らし。地元住民によると、芳雄さん

と志のぶさんは政子容疑者を「村一番の嫁」とほめていた。2人は最近はほぼ外に出せず、食事は運動食で、以前に脳梗塞を患い、足が不自由だった。大喜雄さんも政子容疑者について「あんな優しい人はいない。いつも朗らかだった。愚痴一つ言つたら

| 介護をめぐる主な事件  | 年齢は当時 |
|---|-------|
| 16年2月埼玉県小川町で83歳の夫が77歳の妻を刺殺。「認知症の妻の介護に疲れた」                       |       |
| 15年2月大津市で80代の夫が81歳の妻を絞殺。裁判で「出口がない真っ暗なトンネルでもがき苦しむような気持ちだった」      |       |
| 13年9月新潟市で80代の夫婦の遺体を訪れた介護ヘルパーが発見。夫による無理心中とみられ、介護疲れをうかがわせる遺書も     |       |
| 2月奈良県大和郡山市で96歳の元警察官の夫が寝たきりだった91歳の妻を絞殺。「高齢の私が先に死ねば、妻が困る。介護にも疲れた」 |       |

介護者が困った時の電話相談先

NPO法人介護者サポートネットワークセンター・アラジン心のオアシス電話

03-5866-8747  
祝日を除く木曜の10時半～15時

認知症の人と家族の会

0120-294-456  
土日祝日を除く10時～15時

者(93)が1階寝室で倒れていた。政子容疑者は「3人を世話をしていた」「3人の首を絞めた」と話す。県警は太喜雄さん殺害容疑で逮捕。義父母殺害容疑でも立件する方針で、介護疲れが理由の一つとしている。

事件は4人暮らし。地元住民によると、芳雄さんと志のぶさんは政子容疑者を「村一番の嫁」とほめていた。2人は最近はほぼ外に出せず、食事は運動食で、以前に脳梗塞を患い、足が不自由だった。大喜雄さんも政子容疑者について「あんな優しい人はいない。いつも朗らかだった。愚痴一つ言つたら

ことにならぬなんて思いもしなかった」。亡くなつた志のぶさんが週1回ほど利用していたとされるテイサーピス施設の職員は「担当のケアマネジャーも注意深く観察していくと思うが、(政子容疑者の異変は)わからなかつた。事件が起きてショックを受けている」と言葉少なだった。

ただ、政子容疑者の異変に気づいた住民も、親しく近所つきあいをしていた女性(72)によると、今更ながら元気がなくなり「世話をするのがしんどい」「精神的にきつい」とほしょくになつたといふ。事件の1週間ほど前、女性は政子容疑者宅を訪ね

## 孤立する家族「支援策を」

「一歩間違えば、事件を起したのは私だったかもれない」。九州地方の女性(51)は2年前、90代の義理の祖母と70代の義理の両親の計3人を、約半年間にわたって1人で在宅介護した。今回の事件を知り、身につまされたという。

当初は3人の要介護度は低く、特別養護老人ホーム出で、見かねた担当医から

「もう無理や。1人は施設に」と助言され、要介護度が上がつた祖母を施設に入られた。「嫁の私から、施設に入れたいとは言えなかつた。医師が無理やと言つてくれて『許された』と感じた」

警察庁によると、昨年1年間で「介護・看病疲れ」が

ことにならぬから、こんなことになるなんて思いもしなかつた」。亡くなつた志のぶさんが週1回ほど利用していたとされるテイサーピス施設の職員は「担当のケアマネジャーも注意深く観察していくと思うが、(政子容疑者の異変は)わからなかつた。事件が起きてショックを受けている」と言葉少なだった。

ただ、政子容疑者の異変に気づいた住民も、親しく近所つきあいをしていた女性(72)によると、今更ながら元気がなくなり「世話をするのがしんどい」「精神的にきつい」とほしょくになつたといふ。事件の1週間ほど前、女性は政子容疑者宅を訪ね

「もう無理や。1人は施設に」と助言され、要介護度が上がつた祖母を施設に入られた。「嫁の私から、施設に入れたいとは言えなかつた。医師が無理やと言つてくれて『許された』と感じた」

警察庁によると、昨年1年間で「介護・看病疲れ」が

した。市長寿健康課による

と、志のぶさんは今年9月

時点で日常生活の一部に介護が必要な「要介護1」、

芳雄さんは2016年11月

2」の認定だった。政子容

た。政子容疑者は伏し目が

ちで、表情は暗く、「しんどい体がおかしい」とつらそうだったという。女性が「ケアマネジャーさんに相談したら」と勧めると、政子容疑者は「そうやなあ」

と答えたという。女性は「もっと何かしてやれなかつたか」と悔やむ。

瀬上隆信・敦賀市長は19日の記者会見で、政子容疑者が3人を世話をする「多重介護」の状況だったと説明

た。

厚生労働省の16年の調査では、65歳以上の高齢者たる世帯は1325万2千人で推移している。

2」の認定だった。政子容

た。

介護が必要な高齢者を同居する高齢者が担う「老老介護」の割合は半数以上となり返る必要がある」と話した。(森崎みづほ、八重樫一平、平野尚紀)

た。

世帯で、国内全世帯の約4分の1。介護が必要な高齢者を同居する高齢者が担う「老老介護」の割合は半数以上となり、増加傾向にある。

介護に詳しい灘徳大の結

城康博教授は「一部の地方では、嫁や息子が両親の面倒をみるものだ」という意識はまだ強い」とした上で、「介護を一生懸命する人は追いかけて、孤立しない」と追い詰められ、孤立しない。要介護者の支援に自分が向けるが、家族への目配りは國も自治体も不十分。老老・多重介護の世帯は多いが、施設に入れないといつたうつ病状が出たが、病院に行く時間さえなかった。

転機は、義理の祖母の脳出血。見かねた担当医から

「もう無理や。1人は施設に」と助言され、要介護度が上がつた祖母を施設に入られた。「嫁の私から、施設に入れたいとは言えなかつた。医師が無理やと言つてくれて『許された』と感じた」

警察庁によると、昨年1年間で「介護・看病疲れ」が

した。

市長寿健康課による

と、志のぶさんは今年9月

時点で日常生活の一部に介

護が必要な「要介護1」、

芳雄さんは2016年11月

2」の認定だった。政子容

た。

介護が必要な高齢者を同居する高齢者が担う「老老介護」の割合は半数以上となり返る必要がある」と話した。(森崎みづほ、八重樫一平、平野尚紀)

た。

世帯で、国内全世帯の約4分の1。介護が必要な高齢者を同居する高齢者が担う「老老介護」の割合は半数以上となり、増加傾向にある。

介護に詳しい灘徳大の結

城康博教授は「一部の地方では、嫁や息子が両親の面倒をみるものだ」という意識はまだ強い」とした上で、「介護を一生懸命する人は追いかけて、孤立しない」と追い詰められ、孤立しない。要介護者の支援に自分が向けるが、家族への目配りは國も自治体も不十分。老老・多重介護の世帯は多いが、施設に入れないといつたうつ病状が出たが、病院に行く時間さえなかった。

転機は、義理の祖母の脳出血。見かねた担当医から

「もう無理や。1人は施設に」と助言され、要介護度が上がつた祖母を施設に入られた。「嫁の私から、施設に入れたいとは言えなかつた。医師が無理やと言つてくれて『許された』と感じた」

警察庁によると、昨年1年間で「介護・看病疲れ」が

した。

市長寿健康課による

と、志のぶさんは今年9月

時点で日常生活の一部に介

護が必要な「要介護1」、

芳雄さんは2016年11月

2」の認定だった。政子容

た。

介護が必要な高齢者を同居する高齢者が担う「老老介護」の割合は半数以上となり返る必要がある」と話した。(森崎みづほ、八重樫一平、平野尚紀)

た。

世帯で、国内全世帯の約4分の1。介護が必要な高齢者を同居する高齢者が担う「老老介護」の割合は半数以上となり、増加傾向にある。

介護に詳しい灘徳大の結

城康博教授は「一部の地方では、嫁や息子が両親の面倒をみるものだ」という意識はまだ強い」とした上で、「介護を一生懸命する人は追いかけて、孤立しない」と追い詰められ、孤立しない。要介護者の支援に自分が向けるが、家族への目配りは國も自治体も不十分。老老・多重介護の世帯は多いが、施設に入れないといつたうつ病状が出たが、病院に行く時間さえなかった。

転機は、義理の祖母の脳出血。見かねた担当医から

「もう無理や。1人は施設に」と助言され、要介護度が上がつた祖母を施設に入られた。「嫁の私から、施設に入れたいとは言えなかつた。医師が無理やと言つてくれて『許された』と感じた」

警察庁によると、昨年1年間で「介護・看病疲れ」が

した。

市長寿健康課による

と、志のぶさんは今年9月

時点で日常生活の一部に介

護が必要な「要介護1」、

芳雄さんは2016年11月

2」の認定だった。政子容

た。

介護が必要な高齢者を同居する高齢者が担う「老老介護」の割合は半数以上となり返る必要がある」と話した。(森崎みづほ、八重樫一平、平野尚紀)

た。

世帯で、国内全世帯の約4分の1。介護が必要な高齢者を同居する高齢者が担う「老老介護」の割合は半数以上となり、増加傾向にある。

介護に詳しい灘徳大の結

城康博教授は「一部の地方では、嫁や息子が両親の面倒をみるものだ」という意識はまだ強い」とした上で、「介護を一生懸命する人は追いかけて、孤立しない」と追い詰められ、孤立しない。要介護者の支援に自分が向けるが、家族への目配りは國も自治体も不十分。老老・多重介護の世帯は多いが、施設に入れないといつたうつ病状が出たが、病院に行く時間さえなかった。

転機は、義理の祖母の脳出血。見かねた担当医から

「もう無理や。1人は施設に」と助言され、要介護度が上がつた祖母を施設に入られた。「嫁の私から、施設に入れたいとは言えなかつた。医師が無理やと言つてくれて『許された』と感じた」

警察庁によると、昨年1年間で「介護・看病疲れ」が

した。

市長寿健康課による

と、志のぶさんは今年9月

時点で日常生活の一部に介

護が必要な「要介護1」、

芳雄さんは2016年11月

2」の認定だった。政子容

た。

介護が必要な高齢者を同居する高齢者が担う「老老介護」の割合は半数以上となり返る必要がある」と話した。(森崎みづほ、八重樫一平、平野尚紀)

た。

世帯で、国内全世帯の約4分の1。介護が必要な高齢者を同居する高齢者が担う「老老介護」の割合は半数以上となり、増加傾向にある。

介護に詳しい灘徳大の結

城康博教授は「一部の地方では、嫁や息子が両親の面倒をみるものだ」という意識はまだ強い」とした上で、「介護を一生懸命する人は追いかけて、孤立しない」と追い詰められ、孤立しない。要介護者の支援に自分が向けるが、家族への目配りは國も自治体も不十分。老老・多重介護の世帯は多いが、施設に入れないといつたうつ病状が出たが、病院に行く時間さえなかった。

転機は、義理の祖母の脳出血。見かねた担当医から

「もう無理や。1人は施設に」と助言され、要介護度が上がつた祖母を施設に入られた。「嫁の私から、施設に入れたいとは言えなかつた。医師が無理やと言つてくれて『許された』と感じた」

警察庁によると、昨年1年間で「介護・看病疲れ」が

した。

市長寿健康課による

と、志のぶさんは今年9月

時点で日常生活の一部に介

護が必要な「要介護1」、

芳雄さんは2016年11月

2」の認定だった。政子容

た。

介護が必要な高齢者を同居する高齢者が担う「老老介護」の割合は半数以上となり返る必要がある」と話した。(森崎みづほ、八重樫一平、平野尚紀)

た。

世帯で、国内全世帯の約4分の1。介護が必要な高齢者を同居する高齢者が担う「老老介護」の割合は半数以上となり、増加傾向にある。

介護に詳しい灘徳大の結

城康博教授は「一部の地方では、嫁や息子が両親の面倒をみるものだ」という意識はまだ強い」とした上で、「介護を一生懸命する人は追いかけて、孤立しない」と追い詰められ、孤立しない。要介護者の支援に自分が向けるが、家族への目配りは國も自治体も不十分。老老・多重介護の世帯は多いが、施設に入れないといつたうつ病状が出たが、病院に行く時間さえなかった。

転機は、義理の祖母の脳出血。見かねた担当医から

「もう無理や。1人は施設に」と助言され、要介護度が上がつた祖母を施設に入られた。「嫁の私から、施設に入れたいとは言えなかつた。医師が無理やと言つてくれて『許された』と感じた」

警察庁によると、昨年1年間で「介護・看病疲れ」が

した。

市長寿健康課による

と、志のぶさんは今年9月

時点で日常生活の一部に介

護が必要な「要介護1」、

芳雄さんは2016年11月

2」の認定だった。政子容

た。

介護が必要な高齢者を同居する高齢者が担う「老老介護」の割合は半数以上となり返る必要がある」と話した。(森崎みづほ、八重樫一平、平野尚紀)

た。

世帯で、国内全世帯の約4分の1。介護が必要な高齢者を同居する高齢者が担う「老老介護」の割合は半数以上となり、増加傾向にある。

介護に詳しい灘徳大の結

城康博教授は「一部の地方では、嫁や息子が両親の面倒をみるものだ」という意識はまだ強い」とした上で、「介護を一生懸命する人は追いかけて、孤立しない」と追い詰められ、孤立しない。要介護者の支援に自分が向けるが、家族への目配りは國も自治体も不十分。老老・多重介護の世帯は多いが、施設に入れないといつたうつ病状が出たが、病院に行く時間さえなかった。

転機は、義理の祖母の脳出血。見かねた担当医から

「もう無理や。1人は施設に」と助言され、要介護度が上がつた祖母を施設に入られた。「嫁の私から、施設に入れたいとは言えなかつた。医師が無理やと言つてくれて『許された』と感じた」

警察庁によると、昨年1年間で「介護・看病疲れ」が

した。

市長寿健康課による

と、志のぶさんは今年9月

時点で日常生活の一部に介

護が必要な「要介護1」、

芳雄さんは2016年11月

2」の認定だった。政子容

た。

介護が必要な高齢者を同居する高齢者が担う「老老介護」の割合は半数以上となり返る必要がある」と話した。(森崎みづほ、八重樫一平、平野尚紀)

た。

世帯で、国内全世帯の約4分の1。介護が必要な高齢者を同居する高齢者が担う「老老介護」の割合は半数以上となり、増加傾向にある。

介護に詳しい灘徳大の結

城康博教授は「一部の地方では、嫁や息子が両親の面倒をみるものだ」という意識はまだ強い」とした上で、「介護を一生懸命する人は追いかけて、孤立しない」と追い詰められ、孤立しない。要介護者の支援に自分が向けるが、家族への目配りは國も自治体も不十分。老老・多重介護の世帯は多いが、施設に入れないといつたうつ病状が出たが、病院に行く時間さえなかった。

転機は、義理の祖母の脳出血。見かねた担当医から

「もう無理や。1人は施設に」と助言され、要介護度が上がつた祖母を施設に入られた。「嫁の私から、施設に入れたいとは言えなかつた。医師が無理やと言つてくれて『許された』と感じた」

警察庁によると、昨年1年間で「介護・看病疲れ」が

した。